

化学研究連絡委員会、物理学研究連絡委員会報告

国立サイエンスミュージアム（仮称）
の設立について

平成6年7月15日

日本学術会議

化学研究連絡委員会、物理学研究連絡委員会

この報告は、第15期日本学術会議化学研究連絡委員会及び物理学研究連絡委員会の審議結果を取りまとめて発表するものである。

化学研究連絡委員会

委員長	田丸 謙二	(東京理科大学理学部教授)
幹事	内田 盛也	(第5部会員・帝人(株)顧問)
	櫻井 英樹	(第4部会員・東北大学理学部教授)
	田隅 三生	(東京大学大学院理学系研究科・理学部教授)
委員	安積 徹	(東北大学理学部教授)
	安部 明廣	(東京工業大学工学部教授)
	荒井 弘通	(九州大学大学院総合理工学研究科教授)
	池上 四郎	(帝京大学薬学部教授)
	池田 重良	(第4部会員・龍谷大学理工学部教授)
	伊豆津 公佑	(信州大学理学部教授)
	伊勢 典夫	(レンゴー(株)福井研究所)
	伊東 林文	(徳島文理大学薬学部教授)
	井上 祥平	(東京大学工学部教授)
	井口 洋夫	(第4部会員・岡崎国立共同研究機構機構長)
	岩原 弘育	(名古屋大学工学部教授)
	宇田川 重和	(第5部会員・千葉工業大学工学部教授)
	内田 安三	(長岡技術科学大学学長)
	大木 道則	(岡山理科大学理学部教授)
	大倉 洋甫	((株)同仁化学研究所顧問)
	大瀧 仁志	(立命館大学理工学部教授)
	岡崎 廉治	(東京大学大学院理学系研究科・理学部教授)
	生越 久靖	(京都大学工学部教授)
	金岡 祐一	(第7部会員・富山女子短期大学教授)
	川崎 昌博	(北海道大学電子科学研究所教授)
	北川 勲	(大阪大学薬学部教授)
	北沢 宏一	(東京大学工学部教授)
	朽津 耕三	(城西大学理学部教授)
	児玉 徹	(東京大学農学部教授)
	齋藤 一夫	(東北大学名誉教授)
	齋藤 省吾	(九州大学大学院総合理工学研究科教授)
	三枝 武夫	(第5部会員・(株)関西新技術研究所副社長)
	菅 宏	(近畿大学理工学総合研究所教授)
	妹尾 学	(東海大学開発工学部教授)
	千田 貢	(福井県立大学生物資源学部教授)
	田中 郁三	(学位授与機構機構長)
	田中 元治	(第4部会員・名古屋大学名誉教授)
	中條利一郎	(西東京科学大学理工学部教授)
	土田 英俊	(早稲田大学理工学部教授)
	鶴藤 丞	(第7部会員・(株)サイトシグナル研究所常務取締役研究所長)
	徳丸 克己	(筑波大学化学系教授)
	外村 辦一郎	(京都大学農学部教授)
	鳥居 滋	(岡山大学工学部教授)
	内藤 博	(第6部会員・共立女子大学家政学部教授)
	二瓶 好正	(東京大学生産技術研究所教授)
	額田 健吉	(神奈川科学技術アカデミー専務理事)
	野依 良治	(名古屋大学理学部教授)
	畑田 耕一	(大阪大学基礎工学部教授)
	東村 敏延	(滋賀県庁県立大学開設準備室)
	廣田 榮治	(第4部会員・総合研究大学院大学副学長)
	廣田 襄	(京都大学理学部教授)
	広部 雅昭	(東京大学薬学部教授)
	藤嶋 昭	(東京大学工学部教授)
	不破 敬一郎	(第4部会員・東京大学名誉教授)

本多 健一 (第5部会員・東京工芸大学短期大学部教授)
 三田 達 (日本ダウ・コーニング(株)研究センター研究所長)
 村井 真二 (大阪大学工学部教授)
 室伏 旭 (東京大学農学部教授)
 森田 司郎 (三菱化成(株)総合研究所常務理事)
 矢野 俊正 (第6部会員・横浜国立大学工学部教授)
 山本 明夫 (早稲田大学理工学部教授)
 四ツ柳 隆夫 (東北大学工学部教授)
 米光 幸 (北海道大学薬学部教授)

物理学研究連絡委員会

委員長 中嶋 貞雄 (第4部会員・東京大学名誉教授)
 幹事 蟻川 達男 (東京農工大学工学部教授)
 菊池 健 (日本学術振興会理事)
 小林 俊一 (東京大学大学院理学系研究科・理学部長)
 藤井 忠男 (工学院大学一般教育部教授)
 委員 荒船 次郎 (東京大学宇宙線研究所長)
 有馬 朗人 (第4部会員・理化学研究所理事長)
 安藤 恒也 (東京大学物性研究所助教)
 池上 栄胤 (大阪大学核物理研究センター長)
 石井武比古 (東京大学物性研究所教授)
 市川 芳彦 (中部大学工学部教授)
 岩田 正義 (高エネルギー物理学研究所教授)
 江沢 洋 (学習院大学理学部教授)
 江尻 宏泰 (大阪大学理学部教授)
 遠藤 祐久 (京都大学理学部教授)
 遠藤 康夫 (東北大学理学部教授)
 太田 周 (宇都宮大学教育学部教授)
 大沼 甫 (東京工業大学理学部教授)
 興地 斐男 (大阪大学工学部教授)
 小嶋 泉 (京都大学数理解析研究所助教)
 折戸 周治 (東京大学大学院理学系研究科・理学部教授)
 角谷 典彦 (大阪大学基礎工学部教授)
 勝木 渥 (信州大学理学部教授)
 河合 光路 (九州大学名誉教授)
 川崎 恭治 (九州大学理学部教授)
 川村 清 (慶応義塾大学理工学部教授)
 木村 嘉孝 (高エネルギー物理学研究所教授)
 郷 信広 (京都大学理学部教授)
 国府田隆夫 (日本女子大学理学部教授)
 小早川惠三 (神戸大学発達科学部教授)
 小林 晨作 (京都大学名誉教授)
 小柳 正男 (電子技術総合研究所基礎計測部計測基礎研究室長)
 近 桂一郎 (早稲田大学理工学部教授)
 佐藤 文隆 (京都大学理学部教授)
 清水 忠雄 (東京理科大学理学部教授)
 菅野 卓雄 (第5部会員・東洋大学工学部教授)
 菅原 寛孝 (高エネルギー物理学研究所長)
 鈴木 洋 (電気通信大学レーザー極限技術研究センター共同研究員)
 宅間 宏 (第4部会員・電気通信大学レーザー極限技術研究センター長)
 竹内 伸 (東京大学物性研究所長)
 伊達 宗行 (第4部会員・日本原子力研究所先端基礎研究センター長)
 田中 茂利 (京都大学理学部教授)
 玉垣 良三 (京都大学理学部教授)
 玉野 輝男 (筑波大学物理学系(プラズマ研究センター)教授)
 張 紀久夫 (大阪大学基礎工学部教授)
 辻 隆 (東京大学大学院理学系研究科・理学部附属天文学教育研究センター長)

辻	哲夫	(東海大学名誉教授)
恒藤	敏彦	(京都大学理学部教授)
道家	忠義	(早稲田大学理工学研究所教授)
中井	浩二	(高エネルギー物理学研究所教授)
長岡	洋介	(京都大学基礎物理学研究所長)
長島	順清	(大阪大学理学部教授)
永野	元彦	(東京大学宇宙線研究所教授)
並木	美喜雄	(早稲田大学理工学部教授)
難波	精一郎	(大阪大学教養部教授)
西川	哲治	(東京理科大学長)
西村	純	(神奈川大学工学部教授)
橋本	英典	(法政大学工学部教授)
平田	邦男	(山梨大学教育学部教授)
深井	有	(中央大学理工学部教授)
藤田	敏三	(広島大学理学部教授)
堀	素夫	(成蹊大学工学部教授)
益川	敏英	(京都大学理学部教授)
松澤	通生	(電気通信大学電気通信学部教授)
丸森	寿夫	(東京理科大学理学部教授)
丸山	瑛一	(技術組合オンゲストロームテクノロジー研究機構常務理事 兼研究所長)
岬	暁夫	(埼玉大学理学部助教授)
三間	圀興	(大阪大学レーザー核融合研究センター教授)
目片	守	(福井大学工学部教授)
守谷	亨	(東京理科大学理工学部教授)
山口	嘉夫	(東海大学理学部教授)
山崎	敏光	(東京大学原子核研究所長)
山田	安定	(東京大学物性研究所教授)
渡辺	久恒	(日本電気(株)マイクロエレクトロニクス研究所長)
和田	昭允	(第4部会員・(財)相模中央化学研究所理事)

国立サイエンスミュージアム（仮称） の設立について

優れた国には、優れた大学がある、といわれる。同じ様に、卓越した科学技術をもつ国には、世界に誇る科学博物館がある、といえよう。ワシントンのスミソニアン博物館、ミュンヘンのドイツ博物館などは、その国の素晴らしい文化遺産であると同時に、次代を担う若者の科学、技術への関心を高め、将来の科学技術を世界の最高水準に保つための人材を生み出すのに極めて大きな役割を果たしてきた。さらにこれらの科学博物館はワシントンやミュンヘンへ観光客を引き付ける上でも貢献している。我が国は、西洋に遅れて科学技術を取り入れ、これまで大きな努力を払って、科学、技術の発展に努め、極めて短期間に、技術力においても、また基礎科学においても、欧米と肩を並べる水準に到達した。資源の乏しい我が国としては、今後も科学技術の水準を高く保ち続けられない限り、豊かな未来の保障はない。一方で、最近、若者の理工系離れが目立ってきており、また今後若年人口の急速な減少が予測される。このような時に当たって、科学技術会議諮問第20号で述べられているように将来の科学技術系人材を確保するためには、優れた科学技術系博物館の存在が大きな役割を果たすものと考えられる。

我が国にも現在、かなりの数の科学系博物館が存在している。国立の施設としては、東京上野の国立科学博物館（現在一部改装中）があり、これまで科学技術の普及に大きな役割を果たしてきた。また、日本科学技術振興財団の科学技術館のほか、地方自治体その他の建設した科学系博物館も増加している。しかし、中心となるべき国立のサイエンスミュージアムとして、国立科学博物館を見た場合、その規模、年間予算においても、職員数においても、前述のスミソニアン博物館、ドイツ博物館などと比べると、いかにも見劣りすると言わざるを得ない。展示内容についても、国立科学博物館の設立目的の中心が自然史に関する科学にあったため、理工系の展示が不十分な印象を与えるのは否めない。北の丸の科学技術館も、残念ながら、日本の科学技術を代表する科学技術館としては不十分である。科学技術に関する世界の中心的国家として発展しようとしている日本に、是非、充実した、世界に誇れるようなサイエンスミュージアムを建設したい。それは、子供も大人も楽しめ

るような、そして同時に啓発されるような、内容を持たなければならない。優れたサイエンスミュージアムでの、目を輝かせるような体験的学習を通して、次代を担う青少年に科学技術の面白さ、重要さを伝えたい。また、日本の科学技術の発展の跡を後世に残すべき貴重な資料が、建物の改築や保存スペース不足を理由に急速に失われつつある現状も憂慮される。これら資料の収集、保存も急がなければならない問題である。一方で大幅な貿易黒字を抱え込んで、内需拡大を内外から要望されている今は、将来にわたり世界に誇る文化的財産となるような、外国からも観光客がよろこんで来るような、国立のサイエンスミュージアムを建設する好機である。

新設のサイエンスミュージアムの内容になにを盛り込むべきかは、衆知を集めて検討すべき問題であるが、最小限、次の条件を満たしていることが望ましい。

1. 将来にわたって、世界に誇れるような内容をもつこと。
2. 科学技術の面白さ、重要さを、来館者、特に子供たちが直接手に触れて実感的に体験できるような設備を備え、出来るだけ多数の来館者が繰り返し訪れるような仕組みにすること。
3. 展示の内容を常に改良するための十分な研究スタッフと予算を有すること。
4. 来館者の興味を刺激し、理解を助けるような世話係りを配置すること。
5. 先人の残した業績を誇らしく思うような展示を含むこと。
6. 他の国公私立の科学系博物館のネットワークの中心としての機能を有すること。
7. テーマ別の臨時展示に将来にわたって対応出来るような十分な収蔵スペースを有すること。

このようなサイエンスミュージアムを実現するためには、その意義を粘り強く各界に訴えていくことが必要である。そのための努力を日本学術会議において始めるべき時期が来ていると考える。